

学校・地域・家庭と繋がる勝央町社会教育委員

津山教育事務所では、各市町村の社会教育委員の会議において、テーマを持った具体的な取組を推進していただくようお願いをしています。そのような中、勝央町社会教育委員は、「地域住民と行政の間に立って、住民の声を行政に反映する立場」で、「住民と行政の協働のまちづくり」を取組テーマとして活動しています。社会教育委員の役割を共有し、テーマに向けて行動を起こすため議論し、よりよい勝央町をつくっていくための課題にひとつずつ取り組む好循環の事例を紹介します。

社会教育委員としての活動の動きだし

★社会教育委員の役割を共有

「社会教育とは何か」「社会教育委員とは何か」について、全員で年度始めに確認する。これにより、社会教育委員の自覚を持って同じ方向性で活動することができます。

★取組テーマ決定『住民と行政の協働のまちづくり』

勝央町独自の取組を進めるため、社会教育委員の役割を理解したうえで、各委員に取り組みたいテーマを挙げてもらい、話し合った結果、「住民と行政の協働のまちづくり」に決定した。

STEP 1～4を繰り返し行うことで、「住民と行政の協働のまちづくり」は着実に進もうとしている!

STEP 1 テーマを基によりよい町にするための意見交換

「行政の取組について思うこと」「住民の声を聞いて気になること」を全委員が発表し、意見交換する。委員自身が気がかりなこと、やりたいことを共有することで、委員会が起こす「行動」を定める。

<意見交換の具体的な内容（一部抜粋）>

☆「挨拶」「返事」「靴揃え」を推進して温もりのある家庭づくりを!

☆町民と行政が同じ熱量になるため、町民の意見を上手くすくいあげてほしい!

☆役場の部署間の連携・情報共有がもっと必要じゃないか。

STEP 2 ワークショップで共通理解

R3は「目指す子ども像」の共有を行った。社会教育委員である町内の学校長やPTA会長、施設利用者などの地域住民が参加。同じ視点で目指すべきものを共有し、地域課題に目を向けた。

<ワークショップの内容>

- ①勝央町の子どもの良いところ、気になるところを考えよう
- ②勝央町の子どもたちにどんな子どもになってほしいか考えよう
- ③②のためには何が必要なのか(もの・ひと・こと)
- ④勝央町が目ざす子ども像「自立に向かって学び続ける勝央っ子～自分を愛し、友達を愛し、勝央を愛する子～」を共有

STEP 4 実際に行動できることを実現へ（予定）

STEP 3 意見交換の場づくり（予定）

地域課題に対して、関係団体（者）が意見を交わす場を設ける。ざっくばらんに話し合うことで、解決へ向けて協働するきっかけづくりとする。

